

令和元年度「自己評価報告書」

社会福祉法人愛護会
金ヶ崎保育園

I 保育目標

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| ●健康で明るい子ども | ●なぜだろうと考え、物事に疑問をもつ子ども |
| ●自分のことは自分でできる子ども | ●他人のことを考え、協力できる子ども |
| ●自然にしたしみ、愛することのできる子ども | ●豊かな心を持つ子ども |
| ●人の話をしっかり聞き、自分の意思を言葉で話せる子ども | |

II 施設運営の重点課題

- | | | |
|------------|----------|---------------------|
| ●保育内容の充実 | ●風の子農園運営 | ●地域社会や社会資源の積極的活用 |
| ●障がい児保育の充実 | ●食育指導の充実 | ●子育て支援活動の推進と地域福祉の向上 |
| ●郷土文化伝承の促進 | ●職員の資質向上 | |

評価の基準

A	充分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

III 評価項目と取り組み状況

自己評価項目		評価	取り組み状況
1	保育内容の充実 たくましい子を生み育てるために、乳幼児の健全な発達をめざして保育の内容の充実を図る	B	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの家庭環境と子どもの発達を理解し保育を展開した。 年長児が興味関心を持った「虫」をテーマとし、年齢発達に応じた活動を年間通し楽しみ、園全体で取り組むことができた。 保護者の保育士体験を積極的に進め、保護者と共に「たくましい子を生み育てる」保育に取り組んだ。
2	風の子農園運営 地域の方々の協力を得ながら働くことの喜びや、食べ物に対する感謝の気持ちを育てる	A	<ul style="list-style-type: none"> 4・5歳児が中心になり地域の方との畑づくり(苗植え・種まき・収穫)を通して、働くことの喜びをもつことができた。 風の子農園で育てた野菜を給食で利用したり、クッキングを通して、食べ物への関心や感謝の気持ちを育てることができた。
3	地域社会や社会資源の積極的活用 地域力を保育に活かし、子ども達が豊かな生活体験、感動体験ができるように展開し「地域と共に」取り組んでいく	A	<ul style="list-style-type: none"> 自然観察で毎年お世話になっている立花先生と、年長組が初めて八幡平への山登りと、自然観察会に出かけ、様々な感動体験をすることが出来た。 2月に開催の作品展に、地域の方々の作品展示を行い、今まで以上に深い交流を持つことが出来た。またその中でより保育園を知っていただく良い機会になった

4	障がい児保育の充実	家庭、専門機関、関係機関、との連携を密にしながら保護者との相互理解を図り適切な環境の下で保育の充実を図る	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の保育・子どもの姿について保護者と話し合いを持ちながら適切な援助ができるようにすすめた。 ・年長児は就学に向けて、保護者との話し合いを積極的に行った。また、必要に応じて教育委員会や専門の方を入れての話し合いの機会を多く持ち、家庭と小学校、専門機関や関係機関とつなぐなどし、取り組んだ
5	食育指導の充実	「食を営む力」を育むため、保護者、家庭、地域との連携を深め「食べる」ことや「いのち」への関心を高め、子どもの健やかな心と健全育成を促していく	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「お店やごっこ・作品展示会」等で食育に関する展示（朝食の大切さ）や、行事食の写真、レシピ等の配布、おやつを試食を通し、食事の大切さを保護者や、地域に発信した。 ・アレルギー児への対応は、かかりつけ医師の指示書、保護者からの依頼書のもと、看護師や栄養士と連携のもと適切に行った。 ・栄養士が中心になり金ケ崎町管理栄養士との連携を図りながら、乳児を持つ地域の親を対象に金ケ崎町子育て支援センターを会場に離乳食教室を実施した。
6	子育て支援活動の推進と地域福祉の向上	保護者や地域ニーズに応えるサービス提供組織として、保護者や地域の多様なニーズに対応し、乳幼児の発達を尊び、家庭との連携を密にする保育を展開する	A	<ul style="list-style-type: none"> ・金ケ崎町1歳半健診のサポートや、園開放を行った。また、金ケ崎町子育て支援センターの利用者や職員と数回にわたり交流を持ち、地域における子育て支援活動の推進に努めた。 ・保護者のニーズに応え、病児保育事業(体調不良児対応型)に取り組んだ。
7	郷土文化伝承の推進	郷土文化伝承活動「子ども鹿踊り」を保育に取り入れ、地域の子育て文化を地域に発信していく	A	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度も、鹿踊り保存会の指導、協力のもと、年長児が「子ども鹿踊り」に取り組み、地域の行事や、運動会等で発表し、郷土に伝わるよりよい文化を地域に発信した。
8	職員の資質の向上	職員一人ひとりが、たくましい子を生み育てる保育の実践と研究を進める	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修、部会研修、外部の研修に参加した。特に部会研究テーマである「たくましい子を生み育てる保育のありかた・・・保育指針の学習・・・」は全職員で取り組んだ。 ・4園の5歳児が「身体リズム運動遊び」の交流を行った。 ・外部講師により「エピソード記述」について学び、実践事例を持ち寄り記述のポイント等理解を深めた。また、担当年齢ごとに保育所保育指針を読みあい、ケース検討及び保育の振り返りをおこなった。